

明治前期
財政經濟史料集成

第一卷

大内兵衛
土屋喬雄 編

明治
前期
財政經濟史料集成

第一卷

理財稽蹟 大藏省記録局編
松方伯財政論策集 大藏省大臣官房編

原書房

(兩角製本)

昭和六年五月二十五日印刷

昭和六年五月三十日發行

明治前期財政經濟史料集成 第一卷

編者 大 內 兵 衛
土 屋 喬 雄

發行者 山 本 三 生

東京市芝區芝宮下町四ノ四〇

印刷者 杉 山 愛 二

東京市牛込區市谷加賀町一ノ十二

東京市芝區芝宮下町四丁目四十番地

發行所 改造社

振替口座東京八四〇二番
電話芝(43)自一一二一
至一一二四番

序

今回土屋喬雄博士のご尽力によって『明治前期財政經濟史料集成』が復刻刊行されることになったのはまことに喜ばしいことである。この『集成』がはじめて刊行されたのは昭和初年のことであり、その後今日までそれは日本經濟史、日本經濟論等の研究者の間で広く利用されてきた。第二次大戦後一度復刻版が刊行されたが、その後絶版になっていたので、今日では初版は無論のこと、復刻版も容易に入手しえない稀覯本の觀を呈するにいたっている。したがって再度復刻版が出され、妥当な価格で供給されるようになることは、研究者の便益を大いに増すことになるであらう。

本『集成』に収められているのは、明治前期のわが国の財政・金融・經濟等に関するもつとも基礎的な第一級の資料である。もちろん本『集成』以降今日までの半世紀に近い間に、わが国のこの面における研究は格段の進歩をとげた。それにともなつて、新しい資料もつぎつぎ発掘され、さまざまな形で紹介され刊行されてきている。しかし、それにもかかわらず本『集成』に収められた資料が最も基本的なものであり、かつそれがほぼ網羅されていることは今日とい

えども變つていないと信ずる。明治前期のわが国の經濟の研究に志すものが、まず参看しなければならぬのはこれらの資料であらう。

この復刻版の刊行を契機に、本『集成』が一層広く学界で利用され、わが国のこの面の実証的な研究がさらに深められ發展せしめられることを期待したい。

終りに、復刻版の刊行に多大のご尽力を賜わった土屋博士ならびに原書房に厚く謝意を表する。

一九七八年九月

鎌倉の陋屋にて

大内 兵衛

『明治前期財政經濟史料集成』重版に序す

『明治前期財政經濟史料集成』（全二十一卷）は、大内兵衛先生のご懇篤なご指導の下に、大藏省文庫主任、故高橋俊氏のご親切なご協力によって、昭和五年に準備し、昭和六年から十一年までかかって、改造社から刊行してもらった大史料集である。

内容につき一々紹介しないが、明治前期、すなわち維新から明治三十年頃までにおける、大藏省の未公表もしくは印刷本でも稀少となった重要諸文献のほか、工部省の沿革史や農商務省の有名な『興業意見』等をも含む。

これらによって、明治前期、すなわちわが国の近代資本主義構造の成立期の財政・通貨・金融制度の近代化の過程およびいわゆる殖産興業政策について相当掘り下げて研究できるのである。当時はこうした史料の復刻されたものが少なかったので、多くの研究者によって大いに利用された。多くの研究者というのは、たまたまこれを刊行しはじめたところから、日本資本主義発達史の研究が、多くの進歩的な学徒たちの間に急に盛り上ってきたので、この『史料集成』がさかんに利用されることとなったのである。とくに岩波書店刊行の『日本資本主義発達史講

座』には、多く利用され、引用された。

こうしてこの『明治前期財政経済史料集成』は、その学問的役割を大いに果たすこととなった。

そしてこの『史料集成』は有名な史料集の一となったが、終戦後になって明治文献社が、この『史料集成』を大内先生と私に求めて復刻した。その復刻本も相当需要があったと聞いた。しかし、明治文献社は、残念ながら廃業されることとなったので、原書房からも一度復刻したいと申出があった。大内先生におはかりしたところ、ご了承下さったので、ここに原書房版『明治前期財政経済史料集成』が刊行される運びとなった。

こうして半世紀近くなってもなお学界に求められることは、まことに喜ばしい次第であるが、今後も多く of 学徒たちに活用されることを期待する次第である。最後に原書房がこの不況の際、この大文献を復刻して下さることにつき感謝の意を表したい。

一九七八年九月

土屋 喬雄

大藏省(農商務省會計検査院)編纂
大内兵衛校
土屋喬雄

明治前期
財政經濟史料集成
第一卷

序

今日我國の經濟界は最も重大なる時期に當面して居るのであつて、此の時期に於て更生の途を講ずることに専念しなければならぬ。即政府の財政に付ては緊縮方針を持續して其の基礎を確立し、一般財界に付ては根本的立直しを完成して其の安固を計ることを要する。之が爲には非常なる忍耐と努力とを要し、固き決心と大なる覺悟とを以て事に當らねばならない。私は斯る秋に際會して常に明治の初期に於て先輩諸賢が廣く財政經濟の諸政策を樹立し、各般の制度を創始され、我國財政經濟の基礎を作られた苦心と勇氣とを想ふのである。「明治前期財政經濟史料集成」に收むる諸書は、之等各種の政策制度に關する調査、報告書等であつて、我國の財政經濟に關する資料として最貴重なものである。今日其の公刊頒布を見るに至れるは最も時を得たものと信ずる。茲に一言所懷を述べて序とするものである。

昭和六年五月

大藏大臣 井上準之助

序

今日の財政に關する制度は複雑多端を極めてゐるが、その運行に於て一絲も紊れないことを得る所以のものは、この制度そのものが長き年月を経て漸次に完備し來つたが爲に他ならない。ことに明治政府創始の大業に際し、我が財務の當局たりし先輩諸先生がこの制度を樹立經營するために爲されたる慘憺たる苦心は、吾人が常に敬慕の念をもつて追憶する所である。しかも時勢の變遷は吾が財政の諸制度の久しき固定を許さない。今やその改善に關して考慮を加ふべきもの一にして足らない。乃ち、これに關して廣く現代學者の批判を聞くと共に、その創始の歴史に溯りその精神を闡明するは、吾人にとつても亦、緊急なる時務の一端である。

この時にあたり、東京帝國大學教授大内兵衛君、同助教授土屋喬雄君、大藏省文庫所藏の記録を汎く搜索し、明治の前期諸制度創設の際に於ける財政運用に關

する充棟の記録の内、特に歴史的價值あるものを編纂して、之を公刊せられると云ふ。蓋し溫故知新以て財政制度の改善に資せられんとの意であらう。いまその輯録するところのものを見るに、當時における財務當局者施政の事歴、吾が先輩苦心經營の跡一々指摘し得べきものがある。それ故に、もし、この資料にして廣く學者の利用するところとなるならば、財政制度のもつ本來の精神が一層闡明せらるることは明らかであり、それがやがて吾が財政制度の將來の發達改善に對して有益なる示唆を生むの機縁となるであらうことも亦疑ふべくもない。果して然らば、この資料の公刊は實に有益なる時務の一端たるのみならず、また以て、吾人の先輩の苦心を現代に生かしむる所以であると謂はねばならない。一言感懷を誌して序とする。

昭和六年四月二十八日

序

大藏省文庫に保存せられたる資料であつて已に刊行せられたるものとしては、大日本租税志、大日本貨幣史、日本財政經濟史料等があつて、我國財政經濟に關する歴史的資料として學界を利し、又實際家執務上にも裨益した所が尠くない。然るに現代に最も關係深き明治維新以降の理財の事蹟を記したるものは、多くは未だ同文庫に深く藏せられて今日迄世に出てざる爲甚だ之を遺憾とする聲を聞くのである。今回舊友大内兵衛君及土屋喬雄君其の研鑽の餘日を割いて之等文書に付編纂校訂の任に當られ、その公刊を見るに至つたことは眞に欣ぶべきことである。之に依つて明治維新以來の財政經濟政策の樹立及び制度の創設に付先人の偉業の蹟を尋ねることも出來、又將來に對する指針を得ることと信ずる。本書第一回の刊行に際し請はるる儘に一言所感を述べて序とする。

昭和六年五月

序

大藏大臣官房文書課長
荒井誠一郎

六

編輯の序

『明治前期財政經濟史料集成』全二十卷は、明治維新の當初より帝國議會開設に至るまでの日本政府の財政經濟に關する施政の記録及び施政のために爲した調査報告書の一大集成である。それはこの期間の財政經濟を研究せんとする人々にとつて恐くはまたとなき大切な資料であらう。

これらの記録及び調査は、政府當局、特にその財政經濟擔任者としての大藏省の編纂するところにかゝつてゐる。そしてその内あるものは曾つて一度印刷せられたものであるが、その大部分は筆録のまゝ大藏省文庫の塵埃にうづもれて今日に至つたものである。明治の前期においては印刷謄寫の術は今日の如くに進んでゐなかつた、それ故に右のやうな記録や調査についても、政府が公刊したいとの意志をもつてゐても、それを實行することは容易のことではなかつた。それに加へて、事務の記録や意見書の多數については、當時之を秘密としておくことが實際の行政上便利であつたものも少くなかつたであらう。これ今日に至つて、右のやうな記録や調査の未刊既刊のものを編輯集成して刊行

することが、特に必要である理由である。

吾々は、右の如き記録及び調査の厩大なる資料を、全二十卷に編別集成することにした。一方においては、貴重なる資料はなるべく漏らさないやうにとの用意をつくした。そして他方においては、史料叢書としての實用上の價值を絶對的に大ならしめたいと考慮した。その結果この程度の叢書にまとめ上げておくことが萬全であると考へたのである。全卷を通じてやゝ細字を採用したのも亦かゝる考慮の結果である。即ちその體裁の美よりも寧ろその内容の豊富を選んだ次第である。

大日本政府の大藏省が、かくの如き施政の記録及び調査を、今日まで比較的完全に保存し得たことは、今となつては一種の奇蹟であると云はねばならない。そもそも、同省の文庫はその文書整理に關する用意の周到についてかねてより著名であつたが、不幸にも大正十二年の震災はその所藏の文書と珍籍との多くを烏有に歸せしめたゝめ、その所藏してゐた書類は之を原形に復し得ない。しかるに、幸にも、震災前すでに三井文庫その他の特志家はその文書の多くを謄寫筆録しておいてくれた。また一方、震災後大藏省文庫は從來大藏省に關係した各方面の人々からその資料を蒐集することに力を致し、そ

れも亦充分に成功した。かくて、現在の大藏省文庫は一旦烏有に歸したその資料の内主要なるものは之を恢復し得たやうである。かゝる事情は、今にしてこの資料を保存する方法を講じて置かないと他日再び取り返しのかね損失を蒙ることになるであらうかを痛感せしめたのである。

大藏省編纂の資料にして從來すでに印刷刊行せられてゐるものは尠くない。勝海舟の『吹塵錄』はその一であり、『大日本租稅志』はその二であり、『大日本貨幣史』はその三であり、『日本財政經濟史料』はその四である。これ等はいづれも本邦財政經濟史の研究家にとつて不可缺の資料として珍重せられてゐることは、みな人の知るところである。だが、これ等はいづれも大藏省が從來やつた『調査』の報告書であつて、明治維新後の政府のやつた施政の記録ではない。それに對して、こゝに吾々が編輯してこの叢書に收むるところのものはより、多く後者の性質をもつものである。この點においてこの叢書は右の如き既刊の資料に對して史料として特殊の價值をもつものである。また、曾つて大藏省は『明治財政史』を編し、その内に『明治前期』財政史を記述してゐることも亦周知の通りであるが、吾々のこゝに提供せんとする資料は、この財政史の記述に用ひられた